

## 徳島大学における学習支援に関するニーズ分析 ～学生によるピア・サポートの視点から～

中井秀和<sup>1)</sup>、土居義典<sup>1)</sup>、一居航平<sup>1)</sup>、廣瀬壮大<sup>1)</sup>、向井将馬<sup>1)</sup>、新免 歩<sup>1)</sup>、  
亀岡由佳<sup>2)</sup>、遠藤博文<sup>2)</sup>、上田勇仁<sup>3)</sup>、吉田 博<sup>3)</sup>

1) 徳島大学理工学部 2) 徳島大学附属図書館 3) 徳島大学総合教育センター

### 1. はじめに

徳島大学サポート系サークル「学びサポート企画部」は、大学図書館と協働して徳島大学生の学習支援に関するピア・サポート活動を行っている。教員や大学院生が学生の学習に関する相談に対応する Study Support Space (SSS) の運営、レポートの書き方や留学などをテーマとした学習関連のイベントの企画・開催が代表的な活動である(学びサポート企画部 2018)。学生 12 名と助言指導に当たる図書館職員 2 名、教員 2 名で構成されている(2018 年 11 月現在)。

学びサポート企画部では、学習支援の質向上を目指して、企画の効果検証や徳島大学における学びサポート企画部のインパクトを研究しており、活動の成果や意義が示されている(本田ほか 2016; 向井ほか 2018)。今後、さらに徳島大学において求められる学習支援を実現していくためには、学生の学習支援に関するニーズを把握することが重要であり、そのニーズをもとに企画を検討していく必要がある。

そこで、本研究は、学びサポート企画部がこれまでに実施した企画の参加者アンケート、及び徳島大学が実施している「学生の学修に関する実態調査」をもとに、徳島大学の学習支援に関するニーズを整理する。また、ニーズをもとに今後の学びサポート企画部の学習支援について考察する。

### 2. 分析データ

#### (1) 企画の参加者アンケート

学びサポート企画部が 2017 年 4 月から 2018 年 7 月までの間に開催した学習関連のイベントにおける、参加者アンケートの設問「学びサポート企画部に開催してほしい企画を選択してください

(複数回答可)。」を分析する。全部で 9 企画あり、回答数は 732 名である。

#### (2) 学生の学修に関する実態調査

徳島大学が学生の学修意識や学修に関する実態を把握し、教育改革や修学指導に用いる基礎資料を得ることを目的に実施している「第 4 回学生の学修に関する実態調査報告書(ラーニングライフ)」を分析する。回答数 4185 名、回収率 69.2% である。

### 3. 学習支援に関するニーズ

#### (1) 企画の参加者アンケート

表 1 はアンケート結果を示している。選択率が高い項目は、「研究室紹介」、「卒業研究紹介」、「教授の研究紹介」など、大学における研究をテーマとしたものであり、将来自分が取り組む研究について知りたいという意見が多いことが分かる。特に、1 年次を対象に 4 月に開催している、レポートの書き方講座で、「教授の研究紹介」の選択率が高い。次いで、「プレゼン方法」に関する講座や「留学をテーマとした企画」に対するニーズがあることも分かる。

#### (2) 学生の学修に関する実態調査

表 2 は学生の学修に関する実態調査における設問「1. 大学で獲得したい知識・能力」、「2. 大学教育で獲得が期待できる知識・能力」の結果を示している。「専門知識」や「一般知識・教養」については、獲得したいと考える学生も多く、大学教育に期待できると回答している学生の割合も同程度である。それ以外の項目も、獲得したい学生と獲得が期待できると回答した学生の割合は同程度である。しかし、「コミュニケーション能力」については、獲得したいと考えている学生に

比べて、獲得が期待できると回答した学生の割合は低く、その差は7%であり、これは回答者の約293名であることが分かる。

続いて、参加者アンケートで約24%の学生が選択した「留学」について、学修実態調査の設問「徳島大学在籍中に長期・短期海外留学を体験しましたか。」を見ていく。この回答は約9割が「いいえ」と回答しており、海外留学を行わない理由（複数選択式）は、多い順に「全く興味がない（26%）」、「海外留学を行いたいと資金的な援助が十分でない（23%）」、「専門教育においては短期でも時間的に海外留学を行う余裕がない（16%）」である。留学による学習効果や意義は様々なところで語られており、学びサポート企画部でも、留学に関するイベントを多数開催している。実際の参加者の満足度も高く、留学体験者や海外からの留学生と交流するイベントを実施してほしいという意見は多く寄せられている。

#### 4. 今後の学びサポート企画部の学習支援

ここまでのニーズ整理をもとに、今後の学びサポート企画部の学習支援について考察する。

1年次を対象とした4月開催の「レポートの書き方講座」と同時期に、「研究室紹介」、「卒業研究紹介」、「教授の研究紹介」に関するイベントの開催を今後検討する。これにより、新入生は大学での研究や将来をイメージしやすくなり、大学での学習に対する動機づけに繋げることができる。

また、プレゼンテーションやコミュニケーションなどの汎用的技能を育成するようなイベントの開催も検討する。実際に、2018年度前期には、レポート作成、プレゼンテーション、コミュニケーションのスキルを修得するために実践課題に挑戦するSTEP UP講座を3日間開催し、定員10名に対して、ほぼ同数程度の参加があった。今後は、参加定員を増やすなどの検討が必要である。

留学関連のイベントについては、すでに留学に対する興味を持っている学生を対象とした企画を開催してきたが、留学に関する意識を高めることや、留学支援体制や準備に関する情報提供を行う企画も検討する必要がある。

#### 5. まとめ

学びサポート企画部が、毎年開催しているレポートの書き方講座では、約300名の新入生が参加している。授業実施期間中の平日は毎日開設している学習相談SSSでは、年間400名以上の相談者が訪れている（2017年度実績）。また、定員30名程度の学習関連のイベントも、年間5企画以上実施している。このように徳島大学生の学習支援において、学びサポート企画部は一定の貢献をしているといえるが、十分に学生のニーズ把握した上で実施しているとは言い難い部分もあった。今後は、徳島大学生のニーズを把握しつつ企画を行うことで、大学生の学習における悩みや不安の解消、学習意欲の向上に貢献したい。

表1 学びサポート企画部に企画してほしいイベントの選択率

企画してほしいイベント	選択率
研究室紹介	33.3%
卒業研究紹介	33.1%
教授の研究紹介	32.3%
プレゼン方法の講座	27.7%
留学をテーマとした企画	24.0%
インターンシップ関連	22.7%
レポートの書き方講座	16.8%

表2 大学で獲得したい知識・能力の選択率

知識・能力	1. 獲得したい	2. 期待できる
一般知識・教養	15%	19%
専門的知識	28%	30%
課題発見・解決力	14%	14%
マネジメント能力	6%	6%
コミュニケーション能力	17%	10%
討論する能力	5%	5%
語学力	5%	3%
情報機器を活用する能力	4%	4%
論理的な文章を書く能力	6%	8%
その他	1%	1%

#### 参考文献

- 1) 学びサポート企画部（2018）「学びサポート企画部紹介」．（<http://www.tokushima-u.ac.jp/cue/sca/team/sss/> 2018.11.5 閲覧）
- 2) 本田剛士ほか（2016）「徳島大学の教育・学生の学びに与えるStudy Support Spaceのインパクト」、平成28年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集、10-11.
- 3) 向井将馬ほか（2018）「学生が企画する「レポートの書き方講座」の意義」、平成29年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集、24-25.
- 4) 徳島大学（2017）「第4回学生の学修に関する実態調査報告書」.